

公立短期大学に関する調査報告：新見公立短期大学

山内 圭*・難波 正義・奥舎 達典

新見公立大学看護学部

(2014年11月19日受理)

全国公立短期大学協会では、2013（平成25）年度、公立短期大学の実態を明らかにし、それを社会に発信していくための調査を実施した。本報告は、同調査の新見公立短期大学に関する部分である。この報告によって、本学の実態を明らかにする。

（キーワード）公立短期大学、卒業生

はじめに

少子化および学生の四年制大学志向の流れの中で、全国公立短期大学協会では、2013（平成25）年度、公立短期大学の実態を明らかにし、広く国民の理解を得ていく努力をしていくことが喫緊の課題であるとの認識のもと、短期大学の在り方に関する検討会を設け、公立短期大学に関する調査報告をまとめた。同検討会の座長は全国公立短期大学協会会長を務めた本学の難波学長がつとめた。本学の奥舎事務局長は、短期大学の在り方に関する検討会の構成員となり、山内教授は、同検討会ワーキンググループの一員となった。そして、本稿は、この調査のうち、本学として「卒業生の受入先に対する調査の分析・まとめ」で報告したものをまとめたものである。

1 卒業生の受入先に対する調査の分析・まとめ

1) 本学における本調査の受け止め（意義）と取り組み体制について

新見公立短期大学（以下「本学」とする）では、1980年の開学以来、30年以上に渡り、設置団体の新見市内（市町村合併前は新見市及び阿哲郡の4町）はもとより岡山県内、そして中四国地方を中心とする西日本全域、また他の地域にも広く優秀な卒業生を送り込んでいる。本学の卒業生に対する評価は、概して高く、そのことが後輩たちの継続的な高い就職力の維持を可能にしている。また、教員も地区担当制をとるなど、卒業生の受入先との強いパイプ作りを行っている。

本学の難波学長が会長を務めている全国公立短期大学協会により「短期大学の在り方に関する検討会」が設置されると、難波学長と奥舎事務局長のリーダーシップのもと

と、山内広報部長を同調査のワーキングメンバーに選出して調査を推進した。学内の実施に当たっては、総務課職員2人（後藤、杉井）、幼児教育学科教員2人（渡部、武石）、地域福祉学科教員2人（三上、池田）の体制をとり調査を実施した。なお、受入先への訪問調査については、各学科の教員（幼児教育学科5人、地域福祉学科7人）が行った。

本学では、本調査を昨今の公立短期大学の在り方を示すためにも極めて有効な取組であると受け止め、調査を実施した。また、日頃からの卒業生の受入先との強固なパイプを確認し、さらに強めるために有効なものと認識し、就職受入先の訪問調査を行った。

2) 調査対象選定の考え方、選定基準等の設定及びその内容について

前述のように、本学の卒業生は岡山県内はもとより、西日本全域に幅広く就職している。県南の都市部（岡山市および倉敷市等）への就職も多いが、県北西部に位置し、広島県、鳥取県、島根県と隣接する新見市にあるという本学の地理的条件から、近県からの入学者も多いために就職も同様に多くなっている。したがって、本調査対象としては、岡山県、広島県、鳥取県、島根県で本学の卒業生が複数在籍している施設等を選定した。幼児教育学科は12施設、地域福祉学科は21施設を選定し、調査票を送付した。

3) 調査結果について

(1) 調査対象施設・企業の概況

先述の通り、幼児教育学科では12施設に、地域福祉学科では21施設に対し調査票を送付し回答を依頼した。内訳は、幼児教育学科では、12施設中、保育所[園]が9か

*連絡先：山内圭 新見公立大学看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

所、幼稚園、こども園、障害者施設が各1か所である。地域福祉学科では、21施設中、特別養護老人ホームが10か所、老人保健施設が4か所、介護老人保健施設が3か所、身体障害療護施設、リハビリセンター、小規模多機能ホーム、デイケアセンターが各1か所である。両学科の特質上、一般企業等への就職が少ないため、それぞれの学科の内容に応じた専門職としての受入先が調査対象となった。

(2) 調査票の回収状況

幼児教育学科は12通の調査票送付の結果、10施設より回答を受けた(回収率83.3%)。地域福祉学科は、21施設中、14施設より回答を受けた(回収率66.7%)。

(3) 「アンケート調査」問1～問4に係る調査結果

問1. 本学学生の在職状況

1-(1) 本学卒業の正規採用職員(社員)数

人数	施設数
1人	6か所
2人	5か所
4人	2か所
5人	1か所
5-10人	7か所
10-15人	1か所

原則として本学の卒業生が複数在籍している施設に回答を依頼したが、退職や転職等によって現在1人である施設からも回答を得た。平成22年度以降採用の人数もかなりの数になる。

1-(2) 本学卒業の非正規採用職員(社員)数

(平成22年度以降)

人数	施設数
1人	6か所
4人	1か所
5人	1か所
5-10人	1か所
10-15人	1か所
50人以上	1か所

非正規採用もある程度散見される。これは、保育及び福祉業界によく見られる、いわゆる「臨時職員」であると考えられる。その他、例えば子育て中のための時短勤務も含まれているかもしれない。平成22年以降の採用者の中にも非正規採用者が何人か、みられる。

1-(3) 在職者の職種

在職者の職種は、一般職4か所、総合職1か所、専門職21か所、契約職員(社員)4か所となっており、保育や介護の専門職としての採用が多い。

1-(4) 平成22年度以降の卒業生ですでに退職した

人数

平成22年度以降の本学卒業生で、すでに退職した人数としては、1人が4か所、2人が2か所、4人が1か所である。

1-(5) 本学卒業生に対する評価

本学卒業生に対する評価としてポイントが高かった項目は、高い順に「業務上必要な資格を有している」(3.70)、「短期大学での学習経験が業務上役立っている」(3.52)、「責任をもって仕事をしている」(3.30)であった。業務上必要な資格を付与することが本学の本義の一つであるので、卒業生の受入先でもその点を最も評価をしていただいている。また、「短期大学での学習経験が業務上役立っている」の項目で高い評価がいただけたことも、本学の教育内容に対して高い評価が得られたものと考えている。

また逆に評価が低かった項目は、「周囲を説得して仕事を進めるリーダーシップがある」(2.78)、「仕事を論理的・合理的に組み立て、解決する能力がある」(2.91)がやや低く3点以下であった。今後は、リーダーシップや論理的思考力・合理性などを在学中に身に付けるよう教育することが本学の課題である。

問2. 新卒者の採用について

2-(1)-1 新卒者の採用にあたって、学歴による採用枠を設けているかについては、「全部門で設けている」が3か所、「部門」(職域又は職種など)によって設けている」が8か所、「設けていない」が12か所であった。

2-(1)-2 学歴による採用枠を設けている場合、該当するものとしては、大学8か所、短期大学8か所、高専3か所、専修学校5か所、高校5か所であった。大学院の採用枠を設けている受入先はなかった。大学と短期大学の採用枠が多いようである。

2-(1)-3 学歴による採用枠を設けている場合、選考の際の重視点は異なるかについての質問に対しては、「異なる」が3か所、「異なるない」が6か所であった。

2-(2) 直近1年間の短期大学出身者の採用数とその中に占める女性の割合については、以下のようなであった。

直近1年間の短期大学出身者採用数

短期大学出身者の採用数	施設数
1人	7か所
2人	4か所
3人	1か所
5人	1か所

短期大学出身者のうち女性の占める割合

女性の割合	施設数
10%以下	3か所
70-80%	2か所
90%以上	13か所

2 - (3) 新卒者採用の選考の際、特に重視しているものとして占める割合が他に比べて圧倒的に高い(35%)のは「面接」であった。これは、幼児教育学科・地域福祉学科という対人職者養成のための学科の特質上、当然のことであると思われる。続いて、「筆記試験」が高く(16%)、専門的知識や教養を持った人材を受入先が求めていることがわかる。「出身校」という回答が低く(6%)、本学を卒業したということだけで受入先で採用しているというわけではなく、本学を卒業し、どのような力を身に付けた人材であるかということが重要であることは当然のことである。この調査でそれがあらためて裏付けられた。

2 - (4) 新卒者採用の際、ビジネスの基本能力や経験、資質等で特に重視しているものとしては、「熱意・意欲」(24%)「誠実さ・明るさ・素直さ等の性格」(21%)「チームワーク力(コミュニケーション能力・協調性等)」(18%)の順に高い結果になっている。これらは介護福祉・保育等の施設では当然大切な要素である。

問3. 新卒者の研修について

3 - (1) 新卒者のための研修を実施したかどうかについては、20施設が実施した(87.0%)、3施設が実施していない(13.0%)と回答している。

3 - (2) 研修目的として多く挙げられていたのは、「仕事の基本的な進め方」(18%)、「自社の企業理念、ビジョン」(17%)、「社会人としての心構え」(16%)であった。「プレゼンテーション」や「ITスキル」がともに0%であったのは意外であった。

問4. 本学に望むことなどについて

4 - (1) 本学の教育に望むこととしては、「人の痛みがわかり、思いやりを育てる教育」が20か所、「専門分野の基礎知識の取得」が19か所、「自分の考えを引き出す教育」が16か所、「実社会との繋がりを意識した教育」が15か所となっていた。その一方、「ディベート・プレゼン能力の育成」(2施設)や「国際的視野に立つための教育」(1施設)が低いことがわかった。

4 - (2) 本学に対する考えやイメージと合致するものとしては、多い順に「今後も一層発展して欲しい」(アンケートのまとめには「将来的には4

大として発展して欲しい」となっていた)(14か所)、「優れた教育・研究機関である」(13か所)、「就職など進路指導がしっかりしている」(10か所)「卒業生が優れている」(10か所)であった。概してよいイメージを持っていることがわかる。

(4) 「訪問調査」結果など

幼児教育学科では、7施設に対し、2014年3月6日から3月27日にかけて5人の教員が、そして、地域福祉学科では、10施設に対し、3月6日から3月20日にかけて7人の教員が訪問調査を行った。

以下、訪問調査で明らかになったことを問番号ごとに記述する。

問1. 本学の卒業生の在職状況及び勤務状況に関連して(幼児教育学科)

卒業生の在職状況については、長い人では20年近く勤めている。中堅保育士として出産後も継続して勤務している者も複数名いる。一般的に、就職をしてすぐに辞めることはなくしっかりと務めている。その一方、都合(出産等)により退職する卒業生もいる。また、この訪問調査直後の2014年4月より調査対象施設に就職する予定の卒業生も複数名いる。

卒業生に対する受入先の評価は、概ねよい。「非常に真面目で一生懸命に仕事に励んでいる」や「保育者としての能力・資質が高く、指示されたことや与えられたことに対しては、真面目に粘り強く職務に取り組んでいる」という評価も受けている。また、後輩の指導、現場のメインになっている卒業生もいる。勤務態度は良好、職場のリーダー的存在である。またアンケート調査の本学の卒業生の勤務状況について全ての項目に「3」と答えた園があるが、最高レベル「4」に近い「3」の評価であると言われた。他の4年制大学や短期大学だと1つか2つレベルが下がるとのことであった。つまり、本学の卒業生は、非常にレベルの高い卒業生であるという評価である。

その一方、本学卒業生に限らず全体的に言えることという前置きで、「一般常識が不足している」「リーダーシップがとれる人がやや少ない」との評価も得た。また、「自ら新しい課題を見つけて解決にあたることや、物事に対する応用的な対応などが出来るように更なる成長が望まれる」との評価もあった。

本学に対するイメージは、「短大としての環境は整っているようである」「出口教育、就職指導は行き届いている」という評価を受けた。学生のイメージとしては、「かしこく、「にいみこどもフェスタ」など一生懸命取り組んでいるようである」と評価された。

(地域福祉学科)

ある施設に、現在在職している本学卒業生のうち、経験年数が長い人はすでにリーダーとして活躍しており、経験年数が3年ほどの人もリーダーシップがあると評価されている。また卒業生が2名在職している別の施設でも、そのうち1名はすでに中堅的な役割を担っており、リーダーとしての仕事を期待されている。「他校の卒業生に比べ文章力がある」「基本ができているので業務がスムーズで他の規範となっている」「明るくて高齢者に人気がある」「他の短大卒の人々と比べても挨拶やマナーの面ではよくできており、質が高い」「素直で勉強熱心、他機関での研修の報告などもきちんとできる」という評価も受けた。

個人差があるが、4年制大卒者では社会人としての振る舞いができる人が多く、高卒者では知識・技術とも不安な人が多いが、本学卒業生はその中間どころといった感じである。

また、本学の卒業生で「リーダーシップにはやや欠ける傾向にあると感じている」「社会人としての態度は不十分な人もいる」との評価を受けた者もある。

「新見公立短期大学は全国区の短大であると認識している。そのため他府県から入学して卒業後、当法人に就職してくれることが多いが、その場合、3年程度勤務したところで地元に戻っていくという状況がある」との指摘も受けた。これについては、「広い視野で考えれば悪いことではないが、当法人だけを考えれば、せっかく育てたのに残念である」と追記されていた。

本学に対しては、「(実習で)施設に送りっぱなしの学校もあるが、きちんと対応がある」「優秀である」「挨拶や接遇のやり方ができるなど2年間の教育効果がある」という評価を受けた。

問2. 新卒者の採用に関連して

(幼児教育学科)

新卒者の採用に関して、「大学卒と短大卒の枠を設けているが、大卒だから優秀と言う基準ではない」というところ、資格を重視し、多くの人材を確保したいから「学歴による採用枠を設けていない」というところがある。

面接重視のところが多い。性格(誠実さや明るさ)と協調性、保育に対する熱意および意欲があることを重視している。責任感や課題発見・解決力なども新卒者に望むことである。ピアノの技術もある程度必要であるという程度のところもあれば、「子どもにとって歌がある生活は大切なので、ピアノや声楽などの実技試験を重視する」という方針の園もある。

本学卒業生ということではなく全体的に、「現実には、意欲や熱意が少ない」「一つのことを深く掘り下げることがする人が少ない」と評価されている。

本学の卒業生は、「専門知識は十分学んできている」「面接では基準点を問題なくクリアしている」「性格においては芯がありしっかりとした考えを持ち、かつ周りの人と協力しながら仕事に励んでいる」との評価を受けた。

(地域福祉学科)

とにかく、資格を持っていることが重要。高校卒業後の新卒も採用するが、長続きしない場合がある。ボランティアなどのよいイメージしかないので、実際の業務となるとついていけない人がいる。また4年制大学は、より専門的に学んで、相談支援など深くできるが、短大は期間が短いので少し差が出る。高卒を採用するかどうかは、現場が教育できるかどうかの余裕の有無によって毎年異なる。

自分の考えを書く能力を見たいので筆記試験を重視するところもあるが、面接を重視するところが多い。面接では、なぜ当法人を選んだかという点を重視するところ、態度や協調性や積極性を重視するところがある。明るい性格、視線、言葉使い、熱意などを面接で見ている。失敗談を尋ね、その分析や対応する力があるかを聞くことが多いというところもある。相談・報告ができる学生を望む。報告のときに自分はどう思ったかを交えて報告できる人材を希望する。対人職なので誠実さを重視するが、誠実さのような資質は教えられるものではないので、それを備えている人をできるだけ採用したい。

介護福祉士養成校の学生数が減少している状態で、本学には期待しているとの声があった。一方、本学には、もともと地元の学生が少ないので、地元に残ってくれる学生が少ないのが残念であるということも言われた。

問3. 新卒者に対する研修に関して

(幼児教育学科)

3月終わりに実務研修を行うところが多い。内定者に対し、12月に行う園もある。独自の研修は実施していないところもあった。年4回の研修を行う。仕事の基本的な進め方やコミュニケーション、チームワークなどを学ぶ。実習のように保育を行いながら指導を受ける研修がある園もある。

本学の卒業生は、相対的に学力が高く、指導が行き届いているのでよい。また、「本学の卒業生は、研修に積極的に取り組み、そこで得たこと学んだことをしっかりと踏まえて、仕事に励んでいる」との評価を受けた。

(地域福祉学科)

法人理念の研修、資格取得に向けての研修、メンタルヘルスに関する資格取得も勧めている。泊まり込みの研修をする施設や、3か月間の手厚い研修を行う施設もある。利用者と向き合う姿を録画し、新人全員でその様子

を見て講評し合うというやり方をとっているところもある。研修内容としては、コミュニケーションやチームワークを養う目的のものが多く。

広義の研修として、他府県出身者には地域行事への参加、保育所・小中学校との交流などに意識的に参加させ、この地域の文化になじませているところもある。

(本学の卒業生に限ったことではないが) 質のばらつきが大きくなり、ケアの評価が表面的であったり、自己中心的であったりする人が散見される。

地元にある本学に卒業生の悩みを聞いてもらう形での研修を期待する施設もあった。別の施設では、人手不足のため、業務に追われ、なかなか研修できないのが現状であるとの声が聞かれた。

本学卒業生は、研修の際、リーダーシップをとる姿が見られるとの評価も受けた。

問4. 本学に対するご要望・ご意見

(幼児教育学科)

要望

- ・今後もしっかりとした学生を育ててほしい。
- ・「人の痛みが分かり、思いやりを育てる教育」「自分の考えを引き出す教育」「専門分野の基礎知識の習得」などに一層の力を注いでほしい。
- ・面接の内容に力を入れてほしい。
- ・自分の考えを引き出すために受け身でないこと、自分の考えを持つこと、答えのない課題を考えること、などを目指すカリキュラムを工夫してほしい。
- ・実務上必要になるので、音楽、ピアノ、造形、子どもの安全、感染症の知識などの意識付けを行ってほしい。
- ・コミュニケーション能力向上のため、教育方法を工夫してほしい。
- ・仕事をするという強い気持ちを持って社会に送り出してほしい。
- ・「自分の考えを述べることができる力」「入った知識をかみ砕いて他者に伝えることができる力」「他者の意見を受け入れて、コミュニケーションできる力」を身に付けさせてほしい。
- ・人権意識を育ててもらいたい。
- ・ピアノを即興で弾き歌いができる力を身に付けてほしい。

意見

- ・開学以来、少数精鋭で教育に取り組んでおり、きめ細やかな指導ができています。
- ・教員が一生懸命に熱く教育をしている。
- ・「卒業生が優れている」「進路指導がしっかりしている」「歴史と伝統がある」にあてはまる。
- ・よく指導がなされ、優れた教育が行われている。

(地域福祉学科)

要望

- ・2年間でいろんな体験をさせてほしい。
- ・コミュニケーション能力を育ててほしい。
- ・新見市の生徒を確保してほしい。
- ・介護福祉士の中には、広い視野で創造的な視点を持った人もいます。そういった人にはソーシャルワーカーとして活躍してほしいと思う。4年制大学であれば、介護と社会福祉と両方体験して将来のコースを選ぶといったことを試みてほしい。
- ・利用者との関わりにおいて確固とした生命観が必要であり、それは宗教系の科目によって養えると思う。
- ・パソコンのスキル、福祉だけでなく特技なども伸ばしてほしい。
- ・専門知識と技術だけではなく、事務的な能力を付けさせてほしい。
- ・記録できる力やパソコン能力がもっとあればよい。
- ・ボランティアにももっと来てほしい。
- ・実習の受け入れはいくらでもするので、就職をしてほしい。
- ・とても優秀な学生が多いので、できるだけ地元新見市の学生を育ててほしい。
- ・公立なので安心して入学させることができるし、費用面において親としてはありがたい。これからも公立として継続してほしい。
- ・新卒者を採用したいが、なかなかいないのでできるだけ地元に残るように希望する。
- ・人とかかわる仕事であるため、人の痛みがわかる専門職を育てる教育、コミュニケーション能力、チームワーク能力を育てる教育をお願いする。
- ・他の学校に望むことはいろいろ思い浮かぶが、本学に対しては改善してほしい点は特にない。
- ・来春の新卒者は採用できず残念だった。翌年度は期待したい。
- ・コミュニケーション能力をもっと身に付けてほしい。特に職員同士の円滑なコミュニケーションができる人が望ましい。
- ・困難な状況を仲間とともに乗り越える経験、多くの課題を次々に抱えた状況の中で、時々上手に息抜きをしながら継続してやっていく経験、などを教育の中でしていくことが役立つのではないかと。
- ・相談するにも、「自分は～と思うが…」という考えを述べられるようになってほしい。

意見

- ・新見市にあるので、実習やボランティア等交流ができ

- る。交流することで、外部からの意見が聞けたり、施設自身もよい刺激を受けることができる。ケア技術やプライバシー面で、普段自分たちが気付かなかつたりすることや根拠が求められたり、意識が変わる。
- ・新見公立短大の卒業生は優秀で、過去に3年でリーダーになった人材もいた。ぜひ多く採用したい。
 - ・新卒者は有資格者であるため、利用者や施設にとっても地域にとってもありがたいが、新見市の学生がいないため、卒業したら自分の地元に戻ってしまう。
 - ・公立短期大学で、専門的な知識や技術を習得できる。
 - ・(本学に特別ということではないが)、新卒者は指示待ちの人が多い。
 - ・(本学に望むことではなく)介護福祉界全体に考えてほしいのは、「医療的ケア」の導入のことと、国家試験の実施が延期になったことである。

問5. その他(今後の連携・協力等を含む)のご意見・ご要望について

(幼児教育学科)

- ・施設の説明会をぜひ実施させてほしい。
- ・今後も多くの学生を送ってほしい。
- ・施設実習において、学生に障がい者施設を恐れることなく来てほしいため、現在も実習前に施設についての質問を受け付ける時間を設けているが、今後も継続していただきたい。
- ・本学の教員がしっかりと教育されているのを感じるので、ぜひ、継続してほしい。
- ・大学内の子育てひろばや「こどもフェスタ」などのイベントを通じて、既に地域とのかかわりが出来ている。更なる連携や協力を深めながら、資質の高い保育者養成に頑張ってください。
- ・Uターンする学生に関心を持ってほしい。
- ・島根の採用の話をしてほしい。
- ・本学の卒業生は、他の保育者の中に埋もれない優秀な保育者である。今後もリーダーになれる保育者を養成し送り出してほしい。
- ・夏のアルバイトを募集している。
- ・ミスマッチを防ぎたい。
- ・卒業生を連れて大学訪問を考えている。
- ・本学のような養成校が保育現場を訪問し、関係をつくらうと努力する姿勢を評価していただき、このような取り組みがよりよい保育者養成につながるのではないか。

(地域福祉学科)

- ・福祉職の他の資格も取れたらいい(精神保健福祉士など)
- ・もっと頻繁に傾聴ボランティアや慰問を行ってほしい。

- ・新見市に残ってくれる人材を増やしてほしい。
- ・求人をしてなかなか専門職の応募が少ない。
- ・人材不足
- ・看護科の様に地元に残るような制度(地域就職者への奨学金制度)があればいい。
- ・学校が新見市内にあるだけで、希望がある。
- ・(本学が)次々、いろいろな活動をしているのを目にしているので、活気がある。
- ・実習生を受け入れることで、施設職員にも勉強になる。今後も実習を受け入れたい。
- ・卒業後、施設で働いてくれるようお願いしたい。
- ・ボランティアに来てもらい、とても助かっている。今後も協力をお願いしたい。
- ・来年度の新卒募集の予定はないが、再来年度以降、またよろしくをお願いしたい。
- ・卒業生で、介護の現場で働きながら学びたい人もいるのではないか。リカレントスクールもその一つだが、学びやすい学校のしくみや体制づくりをしてほしい。
- ・新見市内に特別養護老人ホームを開設する。職員も実習指導者講習に行かせ、実習指導ができるよう準備するので、実習やボランティア、就職などつながりを深めたい。

本調査結果から見えてきたもの

(1)地元の施設・企業が求める「人材像」

先述の通り、新卒者採用の選考の際、特に重視していることとして占める割合が他に比べて圧倒的に高い(35%)のは「面接」であった。これは、幼児教育学科・地域福祉学科という対人職者養成のための学科の特質上、当然のことであると思われる。続いて、「筆記試験」が高く(16%)、専門的知識や教養を持った人材を受入先が求めていることがわかる。「出身校」という回答が低く(6%)、本学を卒業したということだけで受入先で採用するというわけではなく、本学を卒業し、どのような力を身に付けた人材であるかということが重要であることは当然のことではあるが、この調査でそれがあらためて裏付けられた。

また、新卒者採用の際、ビジネスの基本能力や経験、資質等で特に重視されているものとしては、「熱意・意欲」(24%)「誠実さ・明るさ・素直さ等の性格」(21%)「チームワーク力(コミュニケーション能力・協調性等)」(18%)の順に高い結果になっている。これらは介護福祉・保育等の施設では当然大切となる要素である。

(2)地元施設・企業の「本学への期待・要望」

問4の本学に望むことなどを概観すると、「専門分野の基礎知識の取得」のほかは、「人の痛みがわかり、思いやりを育てる教育」、「自分の考えを引き出す能力」、「実社会との繋がりを意識した教育」が求められていることがわ

かる。後者3項目は、いずれも「人間力」に関わるものであると思うので、本学では、学生の「人間力」を高める努力をしてゆきたい。

(3) 地元施設・企業の採用の動向

学歴による採用枠を設けているところは、あまり多くないという結果であったことから考えると、大切なのは、就職希望者の学歴（やその成績）だけではなく、その人物がどうであるかであり、それによって採用が決まることがよくわかった。

(4) 地元施設・企業との連携協力関係と改善・充実方策など

本学では、卒業生の受入先施設と連絡体制がとれている。これからもそれをより強固なものにしたい。定期的に地区別の同窓会（本学の卒業生を集める縦割りのOG/OB会）を開催しており、卒業生とのパイプも大切にしているので、その繋がりをもとに卒業生の受入先との良好な関係を保ちたい。

(5) 本学の今後に向けて

本学の就職のこれまでの傾向としては、設置団体である新見市内への就職は少数であり、西日本全域に就職先が広がっている。今回の調査では、他公立短期大学と歩調を合わせるといふことで、調査対象を岡山県内及び近県（広島・島根・鳥取）としたが、遠い県外への調査も承

認していただけたら、本学の置かれた実態がより正確に表現できたと思われる。

ただ、広く西日本全域から入学者がある本学では、就職先として本学周辺を選んだとしても、数年で離職し地元に戻っていく卒業生もあるという実態があらためて浮き彫りになった（特に地域福祉学科）。地元に着する若者への教育機関としての地域の施設や住民たちの本学への期待、本地域のみならず幅広く西日本全域から優れた入学希望者を確保したい本学の意向、そしてこの地域が高齢化と人口減少の進む中山間地域であるために都会に出たいという高校生の気持ち（優秀な生徒はその機会に恵まれるため、その傾向が高い）という3つの異なるベクトルの中で、いかに優れた教育を続け、地域への有能な人材輩出も継続的に行なえるかが、本学の今後の大きな課題であることが今回の調査で明らかにされた。

謝辞

全国公立短期大学協会の短期大学の在り方に関する検討会では、同協会の永井隆夫事務局長の多大な尽力のもと、調査が実施された。同氏のご尽力に、深く感謝申し上げる次第である。

A Report of Investigation by Japan Association of Public Junior Colleges on Niimi College

Kiyoshi YAMAUCHI, Masayoshi NAMBA, Tatsunori OKUSHA

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

Japan Association of Public Junior Colleges investigated current situations of its member colleges in 2013. The results of this investigation provided us with frank opinions and significant suggestions from the employers about the graduates from the Departments of Early Childhood Education and Community Welfare, Niimi College.